



一目でわかる!

Photoshop CS 新機能ガイドダンス

鹿野 宏

incunabula

Photoshop CS ならではの基本機能の充実

常時表示可能なヒストグラムパレット	6
広範囲の 16 ビット対応で画質の損失が少ない	10

Photoshop CS のイメージメニューの進化

ソース画像のカラーをターゲット画像に適用する	16
色調補正でする [シャドウ・ハイライト] 調整	20
レイヤーでも利用できる写真家向けのレンズフィルタ	24
[ヒーリングブラシ] ツールでする色の置き換え	26
バリエーションが増えた変倍アルゴリズム	28

Photoshop CS フィルターメニューの進化

アイコンでイメージをつかむフィルターギャラリー	32
レンズのぼけを再現する [ぼかし (レンズ)] の追加	36

Photoshop CS の [ファイルブラウザ] 機能

フォルダを指定して見る [ファイルブラウザ] の概要	42
機能強化された cameraRAW プラグイン	44
任意のサイズに拡大できる [ファイルブラウザ]	50
ライトボックス効果とフラグ付け	54

【お気に入りフォルダ】に登録して高速にアクセスする	58
ファイルブラウザの画像を一括して【自動処理】する	60
【ファイル名をバッチで選択】してファイル名を変更	62
【PDF スライドショー】で画像を PDF として書き出す	66
分割されたショットを「Photomerge」で合成する	70
ファイルブラウザで自動作成する【WEB フォトギャラリー】	72
【コンタクトシート II】で複数の画像を 1 枚にまとめる	76
レイアウトの自由度が増した【ピクチャパッケージ】	78
スキャンした画像を【角度補正して切り抜き】	80

Photoshop CS まである便利な新機能

5階層まで可能な入れ子のレイヤーセット	84
様々なレイヤー表示状態を記憶できる【レイヤーカンブ】	86
編集可能な【キーボードショートカット】	88
フルスクリーンモードとウィンドウアレンジの追加機能	90
【スタートアップスクリーン】に現れるカラーマネージメントガイド	92
パスやシェイプに Illustrator CS と同様のテキストを配置	94
ビデオ出力画面確認のために非正方ピクセルをサポート	96
【画像解像度】での単位のリンクと広大なキャンバス	98

Photoshop CS [環境設定] 早分かり

[一般] ダイアログ	100
[ファイル管理] ダイアログ	102
[画面表示・カーソル] ダイアログ	103
[画面表示・カーソル] ダイアログ	103
[単位・定規] ダイアログ	104
[ガイド・グリッド・スライス] ダイアログ	104
[プラグイン・仮想記憶ディスク] ダイアログ	105
[メモリ・キャッシュ] ダイアログ	105
[ファイルブラウザ] ダイアログ	106
検証環境について	107
あとがき	108
奥 付	111
インクナブラの書籍について	112

Photoshop CS ならではの 基本機能の充実

常時表示可能なヒストグラムパレット

広範囲の 16 ビット対応で画質の損失が少ない



Photoshop CS の今回のバージョンアップの目玉は何といっても描写エンジンがフル 16 ビット化されたことと、リアルタイムヒストグラムパレットの追加に尽きます。その効果を検証してみましょう。また、フル 16 ビット化されたことにより、動きが悪くなるのではないかという懸念をもたれる方もいらっしゃるかもしれませんが、そんなことはありません。より、OSX に最適化されたのでしょう、実際に動かしてみたところ、Photoshop 7.0 よりもパフォーマンスは上がっているように感じます。

Photoshop CS ならではの基本機能の充実

常時表示可能な ヒストグラムパレット

ヒストグラムパレットは以前から期待されていた機能です。常に [ヒストグラム] を確認しながら調整できるのでわざわざ情報パレットの数値に頼らずとも、大づかみに今どの程度の諧調を調整しているのかを把握できます。特にチャンネルごとの表示も可能なのでハイライト、シャドウの RGB 値を調整しやすくなりました。目で見ながらホワイト、ブラックのバランスを取れると思っていいでしょう。

レベル補正にできてトーンカーブにできないことはありません。逆にレベル補正ができて、トーンカーブにできないのはヒストグラムを確認することだけでした。トーンカーブを使用しながらヒストグラムを見ることができるようになった今、[レベル補正] ダイアログの意味は半減してしまったかも知れません。

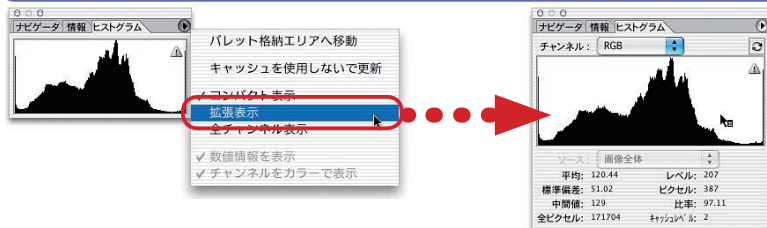
6

サンプル画像を開いてヒストグラムパレットを確認する



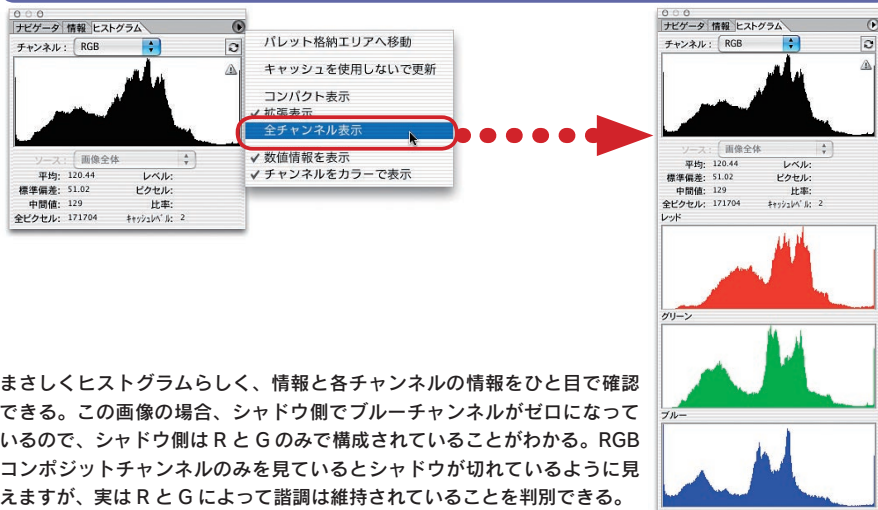
サンプル画像を開く。この画像のヒストグラムを見て見よう。デフォルトでは [ナビゲーター] の裏の位置に設定されている。

サブメニューでできるヒストグラムパレットの拡張機能



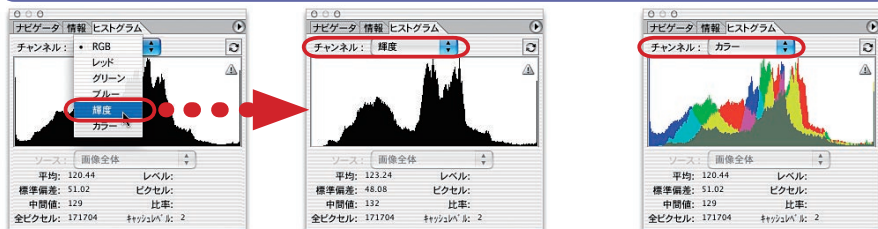
タブをもって引っ張り出すとヒストグラムのパレットが見える。この状態が「コンパクト表示」になる。これだけでも結構なことなのだが、拡張表示があるのでそちらもチェックしてみる。「拡張表示」もしくは「全チャンネル表示」を選択すると、「数値情報を表示」したり、「チャンネルをカラーで表示」できる。デフォルトでは数値は表示されるが、消すこともできる。また、好みにもよるが「チャンネルをカラーで表示」を選択すると各チャンネルに色が付き、見やすくなる。

サブメニューで「全チャンネルを表示」する



まさしくヒストグラムらしく、情報と各チャンネルの情報をひと目で確認できる。この画像の場合、シャドウ側でブルーチャンネルがゼロになっているので、シャドウ側はRとGのみで構成されていることがわかる。RGBコンポジットチャンネルのみを見ているとシャドウが切れているように見えますが、実はRとGによって諧調は維持されていることを判別できる。

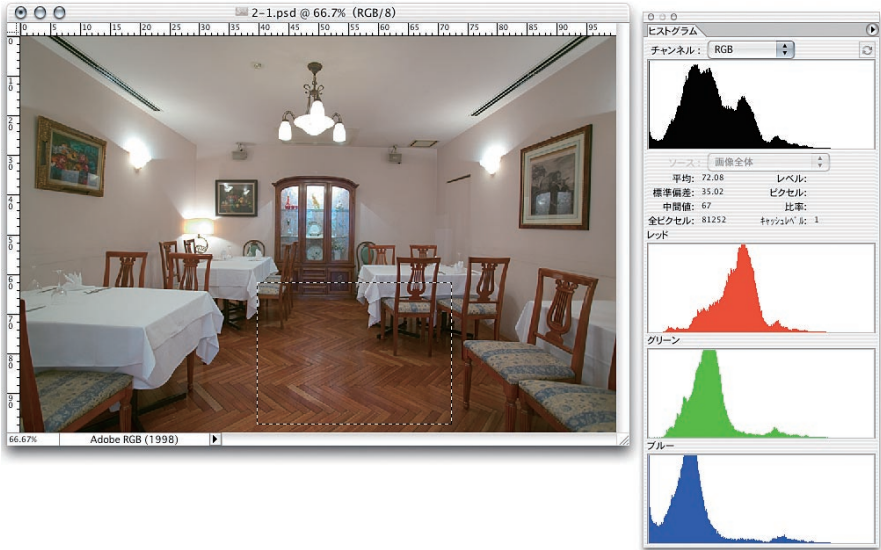
【チャンネル】で「輝度」と「カラー」を選択する



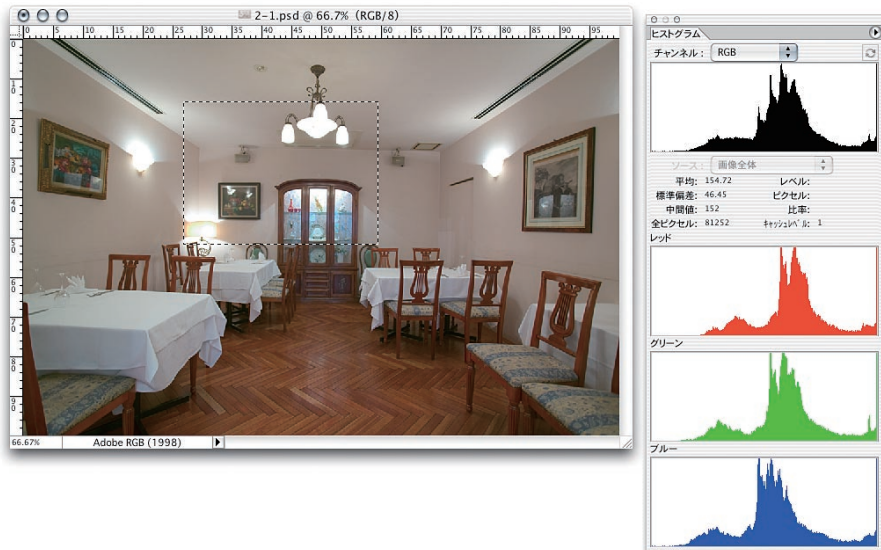
チャンネルから輝度を選択すると輝度情報が表示される。これで見るとシャドウはつぶれていないことが確認できる。さらに【チャンネル】で「カラー」を選択してみると、一つのパレットでRGBそしてグレイの輝度情報を見ることができ、モバイルなど、画面が狭いときには重宝する。尚、マウスポインタをグラフの上に持っていくとその情報も読み取れる。

選択範囲を作成すると選択範囲のヒストグラムが表示される

選択範囲その1



選択範囲その2



このヒストグラムパレットはレイヤー、選択範囲にも柔軟に対応している。選択範囲を作成すると、表示はその選択範囲の中のみ情報に変化する。

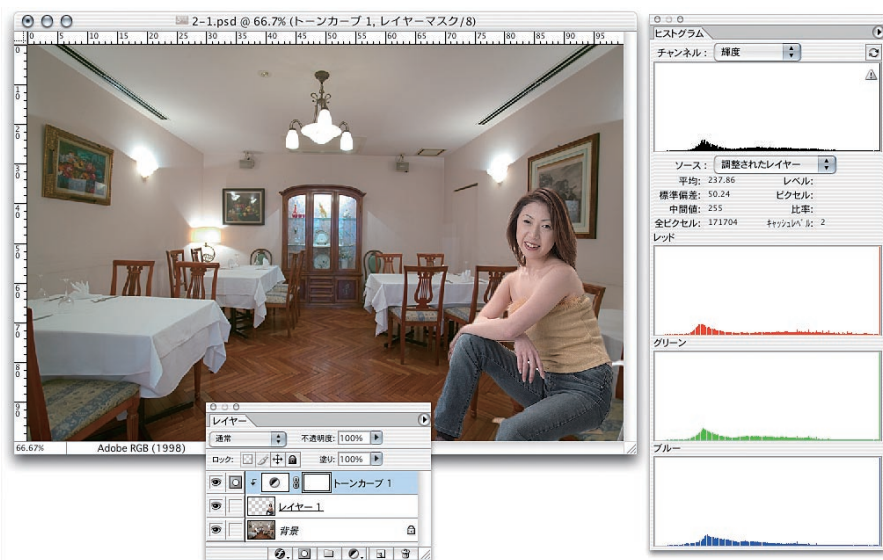
レイヤー単位で表示するヒストグラム



室内の画像に人物を合成した場合、ヒストグラムは各レイヤーごとに表示することも可能だ。この例ではアクティブになっているレイヤー上の人物のみのヒストグラムが表示されている。

調整レイヤー適用後のヒストグラム

9



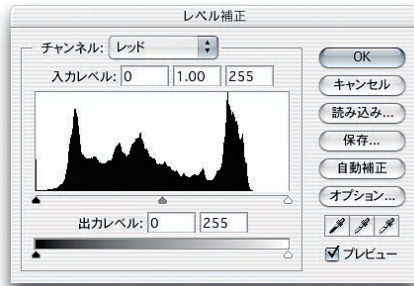
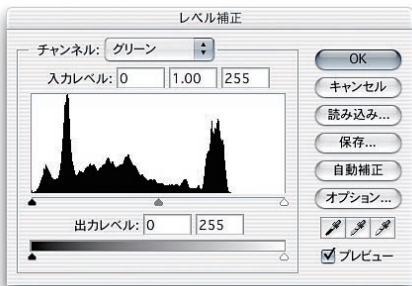
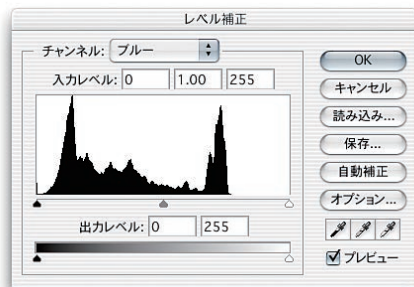
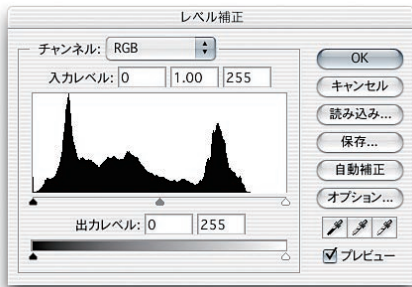
さらに調整レイヤー適用後の効果をヒストグラムで表示することもできる。

Photoshop CS ならではの基本機能の充実

広範囲の 16 ビット対応で 画質の損失が少ない

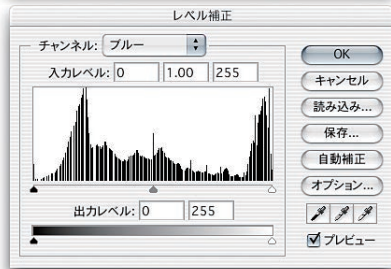
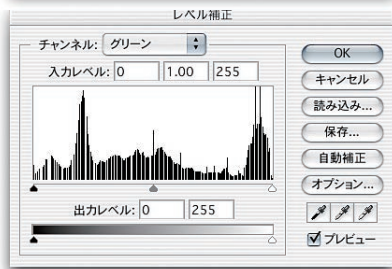
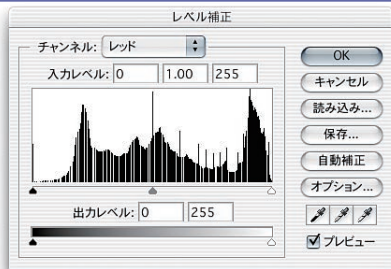
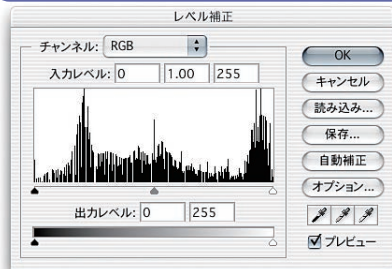
画像処理を常に行うカメラマンにとって待望のバージョンアップです。一部フィルタ一などで未対応の部分（特に「ぼかし（レンズ）」では対応して欲しい）もあるものの、全てのレイヤーの作業を 16 ビット上で行うことができるようになりました。これにより幅の広いグラデーションに起こりやすいバンディング、トーンカーブ調整時のデータの劣化などからかなりの部分でのデータの損失を押さえることができます。もっとも 16 ビットであれば、どんなことをしても構わないという訳ではありません。やはり大きな補正をする時はそれなりに画像は劣化することは頭におきましよう。

サンプル画像のヒストグラムをみる



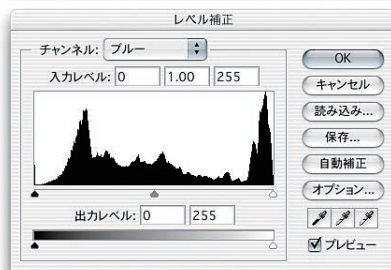
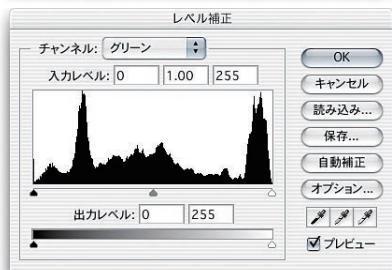
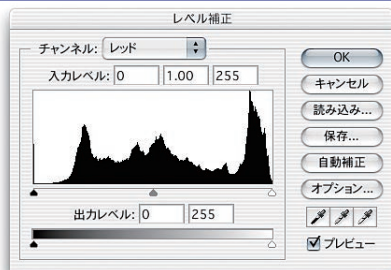
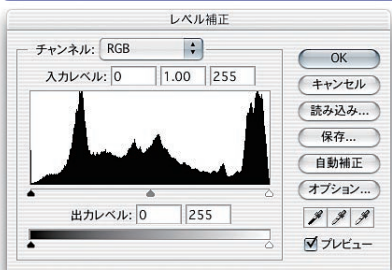
露出不足のデータを RAW から標準的な現像で 8 ビットと 16 ビットの 2 種類で書き出してみよう。この画像を例のように同じパラメーターで明るく補正した場合、ヒストグラム上ではどうなっているかを確認してみたい。

8ビットで書き出して補正する



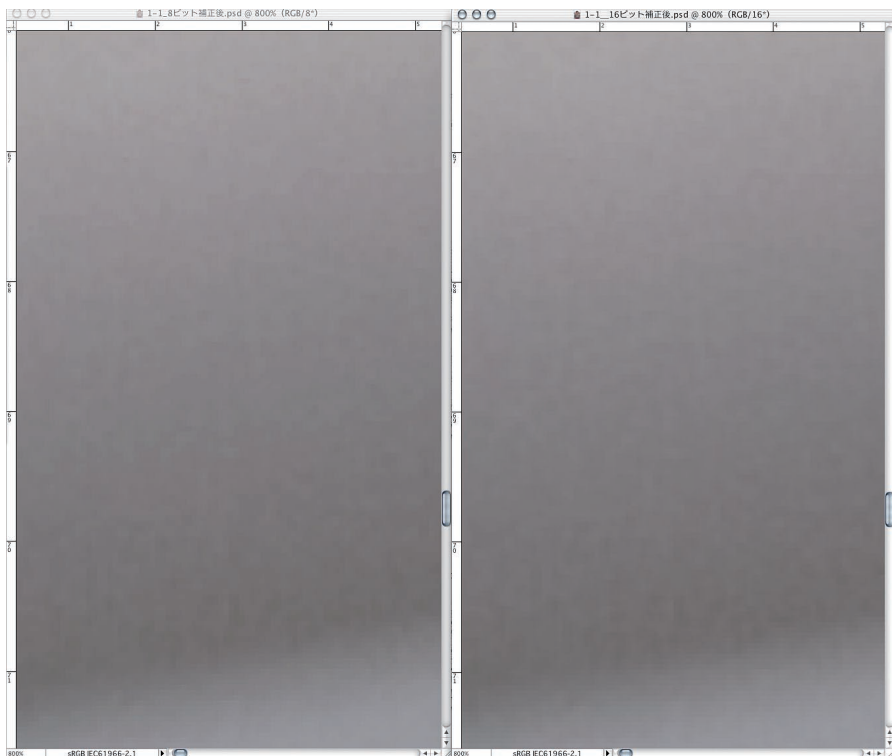
この画像を作例のように同じパラメーターで明るく補正した場合、ヒストグラム上ではどうなっているかを確認してみたい。8ビットの場合はこのようにヒストグラムが櫛の歯状態にかけてしまう。これは階調が連続していない部分が多く存在するということになる。

16ビットで書き出して補正する



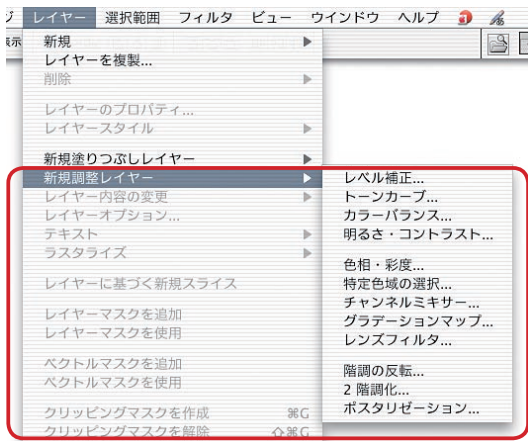
ところが16ビット処理の画像を見てみると、櫛の歯にかけている部分は全く見当たらない。これはグラデーションは壊れずにきれいな階調を保っていることを示している。

グラデーションで見る 8 ビットと 16 ビットの比較



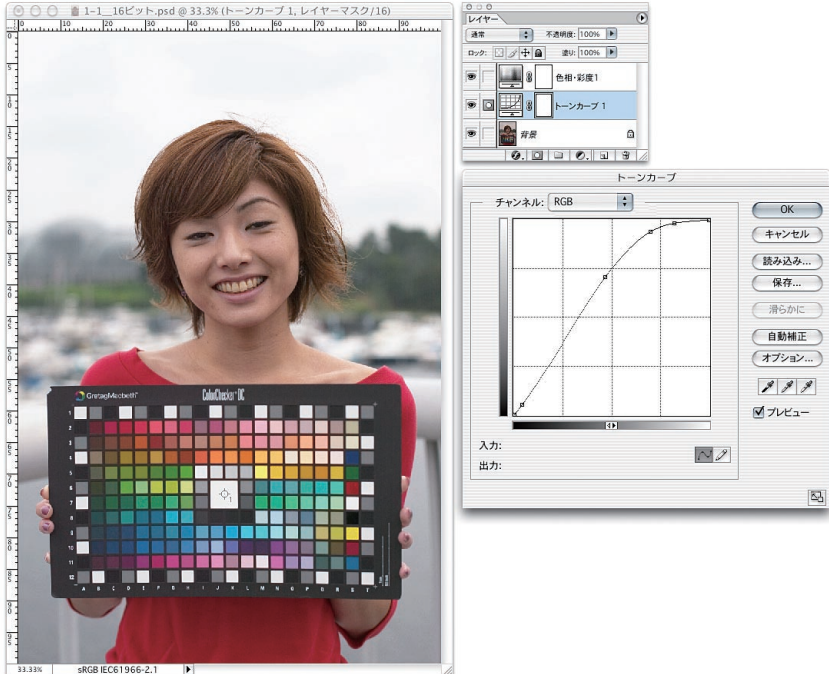
部分的なグラデーションを拡大した画像でも確認してみよう。右が 16 ビットで左が 8 ビット。8 ビットの方にははっきりとバンドニングの後が残っている。

レイヤー、調整レイヤーを維持しながら 16 ビットで実行可能



これだけなら、今まででもできたことなのだが、レイヤー、調整レイヤーを維持しながら 16 ビットで実行可能になったことが大きな改善点だ。今まで、元データに変更を加えず、編集過程を保持し、後に編集可能にしながらファイルを保存するためには心ならずも 8 ビットでの作業が強制されていたことをもったいなく思っていたのは私だけではないだろう。

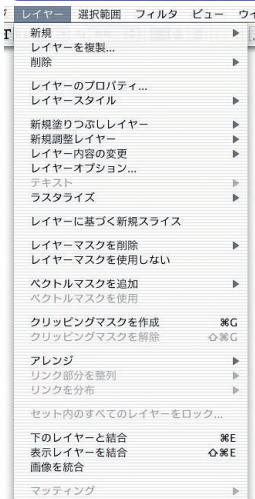
16ビットの調整レイヤーであるトーンカーブと色相彩度



13

ファイルのネームに16ビットの表示があり、且つトーンカーブ、色相彩度のレイヤーが重なっているのがわかるだろう。調整途中の画像を16ビットで、レイヤーを保持したまま、持ち続けることが可能になり、最小限の画像劣化で提出後のクライアントからの突然の変更にも柔軟に対応できるようになった。

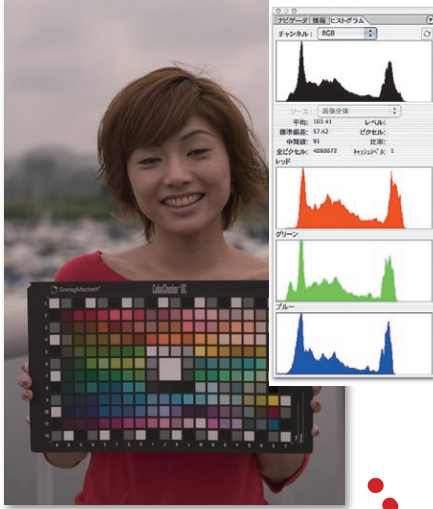
16ビットでも利用できるレイヤーメニュー



また、その他の全てのレイヤー作業も16ビット上で可能だ。

8ビット補正と16ビット補正での画像とヒストグラムの違い

補正前の画像とヒストグラム

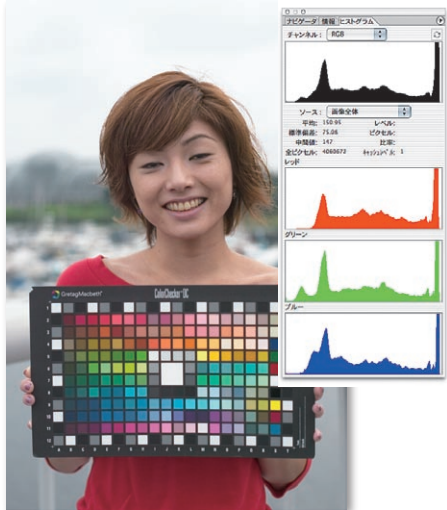


14

8ビットで補正した画像とヒストグラム



16ビットで補正した画像とヒストグラム



元データは露出不足でホワイトバランスも崩れている。ここまで画像を明るくし、カラーバランスを整えると、8ビット操作では通常はトーンジャンプを起こしてしまう（左下図）ところが、16ビットではかなり押さえられるのだ。16ビットでは補正しても、トーンジャンプが発生していない（右下図）ことに注目して欲しい（もちろん、8ビットに落として貼り込んである）。

検証環境について



「一目でわかる Photoshop CS 新機能ガイド」で検証した動作環境は下記の通りです。なお、検証に使用した Photoshop CS はベータバージョンですので、製品版と多少仕様が異なることがあります。下記と同じ条件でも、別の要因で結果が変わることがありますので、ご了解ください。

■使用したマシン

PowerBook G4/15inch/1.25GHz/メモリ -1.5GB
PowerMAC G4/デュアル 1.42GHz/メモリ -2GB
Mac OS X 10.3.2

■検証に使用したアプリケーション

Photoshop CS 日本語ベータ版
Illustrator CS 日本語ベータ版
Photoshop 7.0 日本語版
Photoshop 6.0 日本語版
Acrobat 6.0 Professional 日本語版

あとがき

今回のバージョンアップは実に二年以上待たされたフル 16 ビット化と、リアルタイム [ヒストグラム] の実現という、大きな要素を含んでいただけに、実際に新しいバージョンの Photoshop に触れることに大きな期待を持っていました。そして、その期待は裏切られずに、いや、[ファイルブラウザ] の進化がそれ以上の喜びを私にもたらしてくれました。本文中でも触れていますが、これはもし、単体アプリケーションであっても、手に入れたいと思わせる…いや、手に入れなければ我慢ができないアプリケーションだと思います。多分これは使ってみないとその恩恵の大きさは実感できないかもしれません。私自身、レビューをしながら、[ファイルブラウザ] の使い方がわかってくるにつれ、どんどんその深みにはまり、最後はほとんど [ファイルブラウザ] の機能をフルに使い、煩雑なファイルのリネーム作業、プロファイルの変換、統一、画像解像度の変換などを [自動処理] でこなすことができました。[ファイルブラウザ] がなければ、きっと上げることができなかつただろうと思うほどです。

108

これまでのいくつかのバージョンアップで、テキストが自在に操れるようになろうが、パスをサポートしようが、ブラシがどんなに凄くなろうが、実は基本機能にさほどの差はなく、私たちカメラマンにとってはたいした事なかったというのが事実ではないでしょうか？。Photoshop の基本設計がよくできていたということにもつながるでしょうが、基本的な部分でのバージョンアップはあまりなかったように思えます。(カラーマネジメントがバージョンを重ねるごとに完成形に近づいていった、ということとはしかにありましたけれど)

検証してみて感じたことは、見掛け上はさほど変化がないのですが、デジタルデータを扱うために、写真を高精度でハンドリングするために、しかもそれが大量であっても、こなしてしまうことを可能にする、カメラマンのための Photoshop の誕生だと強い印象を受けたことです。デジタルカメラを使用するカメラマンであれば、この大きなバージョンアップはもう手を上げて歓迎するべきでしょう。私にとって、いままでのバージョンアップの中でもっとも印象深いバージョンアップになると思います。

Adobe Photoshop について、を参照すると、Photoshop CS は実際には v.8 の扱いになっており、市場に出回るときには v.8.01 になっているでしょう。写真データをハンドリングするソフトとしては他に類を見ないほどの完成形を実現したといえます。今後カラーマネジメントの扱いがさらにこなれ、カラー設定がさらに裏側に回るような進化は期待していますが、私個人的には十分な満足の極みに浸っています。

周知の通り、今回から Adobe Creative Suite という統合パッケージで販売されるようになり、他の Adobe 製の DTP に関するアプリケーション郡との連携はさらに密に、シームレスになり、Version Cue という総合管理アプリケーションというようなものまで登場しました。もちろん Photoshop CS もその恩恵に十分あずかれる設計になっています。この新しいシステムがいいかどうかは私はまだ、十分理解はしていません。けれど、Photoshop CS を見る限り、これを使いたいがために Mac OS X に移行しても十分にその理由が成り立つような気がしているのです。

Photoshop CS は、Panther こと Mac OS X 10.3 に正式対応しています。CS に含まれる各製品とも 10.3 に対応になるということです。ちなみにこの本は殆ど OS 10.3.2 を使用して書き上げました。

個人的にはこれだけ短い期間で書き上げることができたのはインクナブラさんのバックアップもさることながら、この Mac OS X 10.3.2 を含めた環境に助けられたとも思っています。(別件ではありますが、10.3.2 は以前に比べてかなり使いやすくブラッシュアップされていると感じました)

今回、声をかけていただき、2 週間という短い期間で書き上げた私の粗削りの原稿をデザインし、調整していただいたインクナブラの上高地氏に感謝します。

本書が皆さまにとって新しい Photoshop CS、あるいは Mac OS X へ移行するその手助けになれば、と願います。(鹿野 宏)

incunabula で



LETS

Leading Edge Type Solution

を お申し込みされる方に

フォントワークスジャパンの包括的フォントサポートプログラム『LETS』へのご入会は、いずれの販売代理店からご入会いただくことができますが、インクナブラよりお申し込みいただくと、フォントワークスジャパンのサポート以外にさまざまな特典があります。

● DTP-S 倶楽部にそのまま入会 ●

DTP-S 倶楽部は、上高地仁の DTP-S 内にある会員制の情報サイトです。DTP の関する新しい話題や Tips など、いち早くお届けする有料のコンテンツサービスです。DTP-S 倶楽部にご入会いただくと下記のような特典があります。この DTP-S 倶楽部は有料の会員制を取っていますが、インクナブラより『LETS』にお申し込みいただくと、LETS 入会期間が同時に DTP-S 倶楽部への入会になります。

会員のみがアクセスできる Web でのコンテンツ	メールマガジン「DTP-S 倶楽部 BCC マガジン」の配信	ペーパーマガジン誌『DTP オカジオネル』の配布	インクナブラ発行の書籍や素材集のご優待
会員のみがアクセスできるページを用意しています。一般に公開されないコンテンツがアップされています。また、会員のみがダウンロード可能な PDF などのコンテンツも用意しています。	「DTP-S 倶楽部 BCC マガジン」は、インクナブラより書籍化されるコンテンツや DTP 倶楽部だけの記事をメールマガジンで配信します。表の DTP-S では書けない話題もあります。	Web ページやメールマガジンに掲載したコンテンツをペーパーマガジンとしてお届けするものです。『DTP オカジオネル』の一部は、DTP-S よりフリーコンテンツとして配布されますが、完全版を手にとってごらん戴けます。予定では隔月もしくは季刊程度で配布します。	DTP-S 倶楽部にご入会いただくと、インクナブラ発行の書籍・素材集・ソフトなどがご優待価格でお申し込みいただけます。また、インクナブラ主催のセミナーにもご優待価格で参加していただけます。

● ご入会方法 ●

■すでに LETS の見積りをされた方

LETS の見積りをされ、お申し込みされるだけになっている場合は、「LETS 見積書兼申込書」をインクナブラまでお送りください。また同時に、ライセンス契約書をフォントワークスジャパンにお送りください。フォントをより早くお使いになりたいときは、「LETS 見積書兼申込書」を先に FAX いただくと、製品をお届けするのがより早くなります。

■ LETS エントリーバックをお持ちの方

エントリーバックをお持ちの場合は、「LETS 見積依頼書」に必要事項をご記入の上、インクナブラもしくはフォントワークスジャパンまで FAX してください。折り返し、お見積りの内容とライセンス契約書をお届けいたします。すでにエントリーバックをお持ちの場合は、ライセンス契約時には入会金は不要です。

■これから LETS の見積りをされる方

いまだ LETS に入会される場合は、ライセンス使用料以外に入会金 (30,000 円) が必要となります。お急ぎの場合は「LETS 見積依頼書」をインクナブラまでお送りください。もし、多少時間があるのであれば、エントリーバックをお買い上げいただき、そのシリアル番号を「LETS 見積依頼書」にご記入いただくと、入会金は不要になります。インクナブラで LETS エントリーバックをお申し込みいただくと、インクナブラの書籍を一冊プレゼントいたします。

■すでに LETS に入会されている方

すでに LETS に入会されていても、年ごとの更新時に販売会社を変更することができます。更新時にインクナブラで更新していただくことで、インクナブラの特典が受けられます。詳しくはインクナブラまでお問い合わせ下さい。

お問い合わせ 〒540-0025 大阪市中央区徳井町2-2-11 LM東本町第三 405 TEL 06-6966-4468
FAX 06-6966-4469 <http://www.incunabula.co.jp> E-mail: incun@incunabula.co.jp

使用したフォント

FOT- マティス Pro

FOT- ロダン Pro

FW- ニューロダン Pro

一目でわかる Photoshop CS 新機能ガイド

発行 2004年1月23日 初版発行

著者 鹿野 宏

発行人 田中 清

発行所 有限会社 インクナブラ

〒540-0025 大阪市中央区徳井町 2-2-11 LM 東本町第三 405 号

TEL:06-6966-4468

FAX:06-6966-4469

製本 石川特殊特急製本株式会社

©2003 by Jin Kamikochi

本書の内容の一部もしくは全部を著作権法の定める範囲を超え、有限会社インクナブラおよび著者に無断で複製、複写、転載することはご遠慮下さい。

本書の内容に関するお問い合わせもしくは質問は、Eメール (incun@incunabula.co.jp) もしくは文書で、小社までお問い合わせください。

■本書のサポート情報は

<http://www.incunabula.co.jp/shoseki/PScs> でアクセスいただけます。

アクセスするには下記のパスワードが必要です。

ユーザー ID PhotoshopCS

パスワード 5b4rzadt

※ Web でのサポートは本書の最終発行日から1年といたします。

本書は Mac OS X 10.2 環境の InDesign 2.0.2 でレイアウトしたものを、データ書き出して PDF 化したものです。その PDF を InDesign に貼り込み、さらに PDF 化して印刷したものです。

インクナブラの書籍について

インクナブラでは、従来の出版の枠を越えて、少部数で書籍を発行する方法を模索してきました。既存の書籍流通では、大手の出版社と書籍流通の間で書籍を発行する流れができ上がっています。しかし、その仕組みの中では発行できないが、書籍にしたいものが多くあります。

読者の興味はパーソナライズされ、より詳しく専門的な知識を要求するようになってきています。書籍の内容が専門的になるにつれ、その書籍を必要とする読者の数は少なくなります。書籍が少部数化する流れはこれからも変わっていかないでしょう。

そうした中で、個人の持つ情報はインターネットを通じて広く公開され、専門的な情報といえども、インターネットを通じて手に入れることができるようになってきました。

しかし、インターネットでは情報のプライオリティが明確ではなく、また、整理され分かりやすい情報になっているのかというと、必ずしもそうではないでしょう。

的確に情報を伝達するには、やはりまだまだ「紙」というメディアの方が分かりやすく理解しやすいのではないのでしょうか。そのためには、今までとは異なった方法で書籍を発行することしかありません。

従来の書籍発行の枠を越えて、さらに少部数で発行することができれば、出版のあり方も変わってくるでしょう。しかしだからといって、書籍をオンデマンドで発行することを読者が望んでいるわけではありません。いままでと同じような書籍として形で発行しながらも、少部数に対応した出版こそが求められているように思います。

インクナブラでは、少部数の読者ニーズに応えるために、さまざまな方法で書籍を制作し発行しています。少部数に対応するために、従来の書籍と比較してページ数が少なかったりします。しかし、300ページある書籍でも必要な箇所はたったの10ページであることも少なくありません。必要なページがたったの10ページであれば、総ページ数が300ページであっても100ページであっても、読者にとってはそれほどの違いはないのではないのでしょうか。

皆さんが手にしたこの書籍のうちの数ページでも、皆さんにとって必要かつ有用な情報であることを望んでいます。

インクナブラ代表 上高地仁